

事案名	美幌町の事案（北海道 1 - 2）
フォローアップ調査資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Intelligence Report on Japanese Chemical Warfare Volume〔1〕</li> <li>・ 「各航空廠引渡目録」 2 / 2〔2〕</li> <li>・ 『朝日新聞』平成 8 年 10 月 19 日〔3〕</li> <li>・ 証言（元第 4 1 海軍航空廠美幌分工場補給課の軍属の証言）〔4〕</li> <li>・ 『美幌新聞』平成 8 年 10 月 28 日〔5〕</li> <li>・ 『読売新聞』平成 8 年 10 月 26 日〔6〕</li> <li>・ 証言（元第 4 1 海軍航空廠警防班の軍属の証言）〔7〕</li> </ul>
追加資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「航空基地図（本土関係）」〔A 1〕</li> <li>・ 「自衛隊施設の使用実態等調査書（業務資料）」〔A 2〕</li> <li>・ 「旧軍毒ガス弾等に関する情報収集について」〔A 3〕</li> <li>・ 『平成 16 年度国内における旧軍毒ガス弾等に係る情報収集及び取りまとめ業務報告書』〔A 4〕</li> </ul>
平成 15 年度フォローアップ調査報告書の要約	<p>終戦時に、第 4 1 海軍航空廠美幌分廠には、イペリット爆弾と通常弾が総計で 1,060 発保有されていた。終戦後、各、海軍航空廠に存在したイペリット爆弾は米軍の監督指揮により海上投棄されたという情報があるが、同分廠が保有するイペリット爆弾と通常弾は、終戦時、旧軍によって網走沖及び屈斜路湖に遺棄されたとの証言がある。</p> <p>生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 終戦時に第 4 1 海軍航空廠（千歳・美幌）にはマスタード 60 kg 爆弾 217 発が存在していたと記載されている〔1〕。</li> <li>・ 終戦後の段階で、第 4 1 海軍航空廠美幌には、60 kg 通常爆弾・60 kg 陸用爆弾・60 kg 1 号爆弾・60 kg 2 号爆弾が総計 1,060 発存在していたと記載されている〔2〕。</li> <li>・ 元海軍美幌航空隊航空廠海軍伍長は、「同廠の西側の沢の両側に掘った数本の隧道に一つずつ木箱に入れて保管していた、100 発前後あったという。毒ガス弾は網走港の烏帽子岩の二キロほど沖合に投棄したことを同僚の話で知った。毒ガス弾は皮膚がただれるようなものだったと聞いており、木箱に入っており、形などは分からない」と証言している〔3〕。</li> </ul> <p>廃棄・遺棄情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 元第 4 1 海軍航空廠美幌分工場補給課の軍属の証言として、毒ガス弾は昭和 19 年に 100 発程度運ばれてきた記憶があ</li> </ul>

	<p>る。上司が毒ガス弾だと教えてくれた。終戦直前に出張があり、「8月22日に美幌に戻ってきたときにはすでに普通弾も毒ガス弾も処分されなくなっていた。当時作業に携わっていた部下の話では、爆弾は全部網走の海に捨てたと言っていたのを聞いているので多分ガス弾も混じていたものと自分なりに判断した」としている〔4〕。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同証言者は、新聞記事によれば、「第41海軍航空廠美幌分工場長から、保管していた爆弾の一部を米軍引き渡す分として残し、大半は網走港沖に捨てたことを聞いた」と記載されている〔3〕〔5〕。</li> <li>・元美幌警防団副部長は、美幌警察署長の命令で美幌航空隊の爆弾類や小銃類の処理班に組み込まれ、弾薬類などの運搬と海中投棄の作業にあたり、網走港から漁船で、「二つ岩」を左側にした状態で、約30～40分出た辺りに捨てた」と証言している。また、同証言者は同様の作業にあたった同僚から、その後「自分は屈斜路湖に捨ててに行った」との話を知っているが、捨てた爆弾類のなかに毒ガス弾があったかどうかは確認していないとも証言している〔6〕。</li> <li>・元第41海軍航空廠警防班の軍属は、「昭和18年から20年までの間、ガス弾は一度に100発ずつ3回列車で輸送されてきた覚えがある。敷地内には地下壕が多数あり、ガス弾専用の地下壕に入れてあった」、終戦時に、上司から、「通常弾は網走沖に投棄し、ガス弾は屈斜路湖へ輸送し湖に投棄すること」との指示を受け、2日間にわたり、一日約30発計60発を屈斜路湖に投棄させたが、証言者自身はトラックに積み込む作業を行っただけで廃棄場所へは行っていない。「ガス弾についてはすべて屈斜路湖に投棄しており、網走には投棄していない。投棄場所は、湖にある半島付近に多く投棄したと聞いている」と証言している〔7〕。</li> </ul>
<p>新たな情報</p>	<p>その他情報</p> <p>(1) 第41海軍航空廠の存在場所に関する情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1美幌航空基地の配置図には第41海軍航空廠の位置が示されている〔A1〕。</li> <li>・陸上自衛隊美幌駐屯地にはかつて旧海軍、第1陸上航空基地滑走路並びに第41海軍航空廠美幌分工場が存在していた〔A2〕。</li> <li>・現在の自衛隊美幌駐屯地には、第1美幌航空基地が存在していた。また、周辺市町村には第2美幌航空基地、第3美幌航空基地が存在していた〔A1〕。</li> </ul> <p>(2) 毒ガス弾等に係る情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第3美幌航空基地の「航空基地施設史実調査資料表」には、「化学兵器整備場」の存在が記されている〔A1〕。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"><li>・元役場職員は、第3美幌航空基地の滑走路の周辺に建物が存在したが、どんな建物であったかは定かではなく、戦後進駐軍によってすべて解体されたと証言している〔A3〕。</li><li>・第41海軍航空廠美幌分廠跡は現在の陸上自衛隊美幌駐屯地に相当する〔A2〕〔A4〕。当時、毒ガス弾を保管していたとの証言情報のある同廠西側の地下壕の場所はまだ特定できていない〔A4〕。</li></ul>
--	---